

研究主題

健康について関心をもち、自ら考え行動する子供の育成

～体育・食育を通して～



体育

保健



食育



武蔵野市立第二小学校

平成26年12月5日(金)

あ い さ つ

武蔵野市教育委員会教育長 宮崎 活志

児童をとりまく健康問題は、社会環境や生活様式の変化など様々な影響により、近年では生活習慣病をはじめ心の病など深刻さを増しています。

また、平成 25 年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査によれば、直近 10 年間における子供の体力は向上傾向にあります。全国の平均値と比較すると、未だ下回っている種目が多く、体力向上が喫緊の課題の 1 つになっています。

このような中、第二小学校では、平成 25・26 年度武蔵野市教育委員会教育研究奨励校として「健康について関心を持ち、自ら考え行動する子供の育成～体育・食育を通して～」を研究主題に設定し、精力的に研究に取り組んできました。

本研究では、体育分科会、保健分科会、食育分科会の 3 つの分科会をつくり、それぞれ目指す児童像を「体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する子」、「自分の体や健康に関心を持ち、生活に役立てようとする子」、「『食』の大切さを知り、よりよい食生活を送ろうとする子」としています。特に、第二小学校の教育目標の中の「たくましく」に重点を置いて、体力面の向上をねらいとするだけでなく、心身の健康とそれを支えるバランスのとれた食生活、睡眠・休養を柱にした基本的な生活習慣を身に付けるための様々な取組を行ってまいりました。また、家庭との連携も深めながら、学校全体で授業をはじめ、朝会や休み時間、給食の時間などあらゆる機会を通して研究を進めてきたことも特徴の 1 つです。

このことにより、健康について知識を広げ、自分自身の健康に関心をもつ児童が増え、目指す児童像に迫る姿が多く見られるようになってきたと伺っております。今後、この 2 年間にわたる本研究の成果が広く市内外の教育実践に寄与されることを心より願っております。

結びに、本研究の推進に御尽力いただきました金子 圭子 校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に心から感謝申し上げますとともに、本研究のために温かいご指導・ご助言を賜りました講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

は じ め に

校長 金子 圭子

平成 25 年 9 月に行われた、オリンピック・パラリンピック東京招致の最終プレゼンテーションでの、パラリンピック女子走り幅跳び代表、佐藤真海さんのスピーチを記憶されている方は多いことと思います。「私がここにいるのは、スポーツによって救われたからです。」という言葉から始まるスピーチは、19 歳の時に病気で片足を失い絶望の淵に沈んだことや、スポーツを続けることで、失ったものではなく持っているものが大切だと思えたこと、東日本大震災の被災地支援を通してスポーツの真の力を目の当たりにしたことなどが語られていました。人生の困難な状況を受けとめ、それを乗り越えていく心身のたくましさは、確かな学力、豊かな心とともに、生きる力の根幹をなすものです。一度は絶望の淵に沈んだ佐藤さんが、新たな目標を決め、それを越えることに喜びを感じ、自信を取り戻すまでには様々な葛藤があったことと思いますが、生き生きと前向きに生きる希望を与えてくれるスピーチでした。また、同時に、人生がつねに平らかであるとは限らないことを教えてくれるものでもありました。

日々、子供たちと接し教育に携わる者として、子供たちが将来に渡り心身ともに健康で豊かな人生を築いていくための「生きる力」を育み、どのような状況にあっても希望を失わずに生き生きと自己実現する子供を育成することは重大な責務と言えます。本校では、平成 25 年度から武蔵野市教育研究奨励校の指定を受け、「健康について関心を持ち、自ら考え行動する子供の育成～体育・食育を通して～」を研究主題として 2 年間の研究に取り組んでまいりました。遊ぶことが大好きで元気な子供たちですが、心身のたくましさという視点で実態を見直し、自分の心や体の状態と向き合い、健康的な生活について自ら考え行動する力、よりよく生きる力を高めたいという願いから、研究主題を決定しました。二小がめざす健康な姿とは、元気に運動する、生き生きと活動することにとどまらず、自分の体を守る、将来の夢をもつ、挑戦する意欲をもつ、人と豊かにかかわる、食を楽しむなど多岐に渡りますが、重点とすべき 3 つの柱を決め、それぞれのめざす児童像を明確にした上で、授業や授業以外の取組を通して確実に一歩ずつ研究を進めてまいりました。

2 年間の研究を通しての成果は、数値に表れない部分も多く、一人一人の子供の意識や行動を見取り明らかにする必要があります。また、この成果を土台として、新たな課題に向き合いつつ、積み上げたものを維持し発展させる努力を続けることも大切です。この度、これまでの研究の歩みを発表し、皆様のご指導ご助言をいただく機会を得ましたことは誠に幸いです。

研究を進めるにあたり、武蔵野市教育委員会をはじめ関係の皆様には力強いご支援をいただきました。さらに、講師として、古俣龍一先生、山森健吉先生、長柄克彦先生、谷合みやこ先生、宍戸鈴子先生、三浦壮次先生、河野節子先生にご指導ご助言をいただきました。また、鈴木秀人先生には、研究全体を通してのご指導をいただきました。

心から感謝し御礼申し上げます。

研究の概要

1

研究主題・副主題

健康について関心をもち、自ら考え行動する子供の育成 ～体育・食育を通して～

(1) 主題設定の理由

変化の激しい社会の中で子供たちに必要なものは、「自ら課題を見付け、主体的に判断し、課題解決に導く力」「他者と共に協調し、他人を思いやる心」「たくましく生きるための健康・体力」である。この「生きる力」を育むため私たちは長年研究を積み重ねてきた。

その結果、本校では主体的に学ぶ力や意欲が向上し、一定の成果が見られた。

しかし、「児童によって日常生活における運動経験に偏りがあること」「望ましい生活習慣の定着に個人差があること」など、健康・体力面の課題も見られた。これは近年の教育課題に挙げられる「運動の二極化（積極的に運動する子とそうでない子）」や「健康教育・食育の推進」と重なる。

さらに、私たちには「児童一人一人のやり遂げようとする気持ちを育てたい。」「自己肯定感と人への思いやりの心を大切にしてほしい。」という願いがある。

これらの解決に向けて、平成25年度から本校の教育目標の「やさしく かしこく たくましく」のうち、「たくましく」に重点を置いて研究を進めることとした。

「たくましさ」を育てることは、体力面の向上をねらいとするだけでなく、健康を維持し、意欲や気力を高めるといった児童の精神面を充実させることでもある。

そこで、二小のめざすたくましさを「心身ともに健康な自分自身をつくる」こととし、研究主題を「健康について関心をもち、自ら考え行動する子供の育成～体育・食育を通して～」に設定した。この主題に迫るため3つの方針を定めた。

- ①体育科の指導による 日々運動に親しむ資質や能力の向上
- ②保健指導による 日々の健康管理能力の向上
- ③食育指導による 日々の健全な食生活を実践しようとする態度の育成

心身ともに健康になるには、適度な運動、バランスのとれた食生活、睡眠・休養を柱にした基本的な生活習慣を児童期に適切に身に付けることが重要である。この3つの方針をもとにして実践することで、望ましい生活習慣を定着させたい。また、学び合いの中で「自分自身でやり遂げる姿勢」や「自分のよさに気付く力」「人への思いやり」を育てていく。

私たちにとって生涯にわたり心身ともに健康に過ごすことは、活力ある生活を送る上での基盤であり、一人一人の未来を支えるものである。私たちは本研究を通じて健康について主体的に学び、生涯にわたり健康になろうとする児童を育てていきたい。

(2) 主題のとらえ方

- ※健康とは … 心身ともに満たされ、社会の環境に順応しながら生き生きと生活できること
- 健康に関心を持ち… 児童が自らの心身の状態に関心を持ち、将来に向けて自分の健康を保持増進していこうとする意欲をもつこと
- 自ら考える … 経験や知識をもとにして、自分から未知の事柄を解決（予測）しようとして積極的に頭を働かせること
(平成19・20年度本校研究紀要より)
- 行動する … 実践力を身に付けること

(3) めざす児童像

本校では、「健康に関心を持ち、自ら考え行動する子供の育成」をめざし、3つの分科会編成で、より具体的にめざす児童像を設定した。

体育分科会

体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する子
〈生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる〉

保健分科会

自分の体や健康に関心を持ち、生活に役立てようとする子
〈自らの健康を適切に管理し、改善する資質や能力を育てる〉

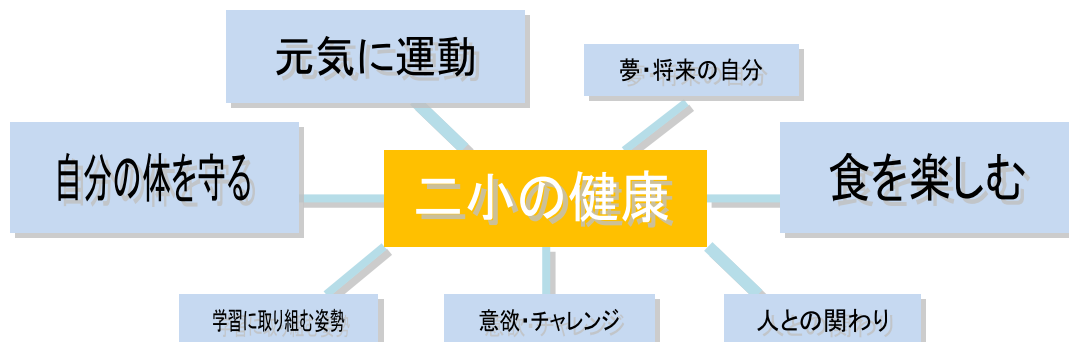
食育分科会

食の大切さを知り、よりよい食生活を送ろうとする子
〈健全な食生活を送ろうとする態度を育てる〉

(4) 研究仮説

めざす児童像を達成するために、以下に研究仮説を設定した。

- 「たくましさ」を育むことをめざして、授業や取組の中で児童に意識させたい**視点**を設定し、それをもとに活動することで**二小のめざす健康**に近づけよう
- 日常生活全体を通して授業と関連した取組を全校で行うことで、健康への関心が日常化し、自ら行動しようという意欲が高まるだろう



学校教育の今日的課題

- ・生きる力の育成
- ・体力の向上（豊富な運動経験）
- ・望ましい生活習慣の定着
- ◇東京都教育委員会の目標
- ◇武蔵野市教育委員会の目標



児童の実態・教師の願い

- ・主体的に学ぶ児童は増えてきた
- ・健康への関心を高めたい
- ・やり遂げようとする気持ちを育てたい
- ・協調性・自己肯定感を大切にしてほしい

学校教育目標

やさしく かしこく ①たくましく



<二小のたくましさ> 心身ともに健康な自分自身をつくらうとする

研究主題

健康について関心をもち、自ら考え行動する子供の育成
～体育・食育を通して～

めざす児童像

- 体育分科会** 体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する子
- 保健分科会** 自分の体や健康に関心をもち、生活に役立てようとする子
- 食育分科会** 食の大切さを知り、よりよい食生活を送ろうとする子

研究仮説

- 「たくましさ」を育むことをめざして、授業や取組の中で児童に意識させたい視点を設定し、それをもとに活動することで二小のめざす健康に近づくだらう
- 日常生活全体を通して授業と関連した取組を全校で行うことで、健康への関心が日常化し、自ら行動しようという意欲が高まるだらう

研究の視点

主体的な学びを促す

体験的活動

授業と授業以外の取組をつなげる

生活の振り返り

家庭との連携

指導計画の改善・開発

授業と取組

研究主題に迫るための具体的な手立て・取組を開発し、実践した。

授業における手立て

授業以外の取組

<授業と授業以外の取組をつなげる>

- ★主体的な学びを促す
- ★生活の振り返り

- ★体験的活動
- ★家庭との連携

- ★指導計画の改善・開発

全校の取組

チャレンジカード 休み時間の取組 朝の時間の活用 掲示物の工夫

体育

- 体を動かす楽しさを味わわせる工夫
【主体的な学びを促す】
- 主体的に体を動かすための工夫
(教材・教具 組み合わせた動き)
【主体的な学びを促す】 →P10へ

体育

- 体育朝会（体づくり運動・体力を高める運動）
【朝の時間の活用】
- 固定施設・持久走・リズムなわとび
【休み時間の取組】 →P11へ

保健

- 自分の生活の振り返り
【生活の振り返り】
- 生活リズム表を授業に活用
【家庭との連携】 →P14へ

保健

- フローチャート形式の校内掲示
【掲示物の工夫】
- 生活リズム表
【家庭との連携】
- 健診時の睡眠・歯科衛生の指導
【指導計画の改善・開発】 →P15へ

食育

- 生きた知識や技能を習得させる体験的活動
【体験的活動】
- 関心を高めるための実物提示・掲示の工夫
【主体的な学びを促す】
- 児童の気付きや発見を生かした学習過程の工夫
【主体的な学びを促す】 →P18へ

食育

- 給食指導の工夫 【指導計画の改善・開発】
- 食育掲示板 【掲示物の工夫】
- 食の小話 【主体的な学びを促す】
- 給食の栄養素表示 【掲示物の工夫】
- 二小 Let's モグモグ 【掲示物の工夫】
- 二小 Let's モグモグレシピ 【家庭との連携】 →P19へ

チャレンジカード →P21へ 体育・保健・食育について目標を立てて取り組む

4

研究の経過

平成25年度

| 日時 | 内容 |
|---------------|--|
| 4/10 研究全体会 | 本年度の研究について (実態把握・研究主題設定・指導計画の確認・研究授業の計画) |
| 5/1 研究全体会 | 本年度の研究について (研究主題検討・研究の方向性・アンケートの内容 指導案の形式・研究構想図・育てたい児童像) |
| 5/15 研究授業 6年 | 体育 6年1組 「体ほぐしの運動」 井出 史進 主任教諭 ○視点 ・本時の子供たちの様子から今後も体力を高めようとする意識が高まっているか 講師 東京福祉大学教授 古保 龍一 先生 |
| 6/19 研究授業 4年 | 食育 4年2組 「どんな食べ方がいいのかな」(学級活動) 長谷川 海洋 主任教諭 ○視点 ・児童が食生活を見直すきっかけができたか 講師 福生市立福生第七小学校元校長 山森 健吉 先生 |
| 7/10 研究授業 3年 | 保健 3年1組 「毎日の生活と健康」 城田 美穂子 教諭 ○視点 ・自分の生活を体の清潔という視点で見直せたか 講師 台東区立浅草小学校副校長 長柄 克彦 先生 |
| 8/29 研究全体会・研修 | 講義 「たくましさについて」 ・たくましい子とは?・運動指導の在り方 講師 東京学芸大学教授 鈴木 秀人 先生 |
| 9/11 研究授業 1年 | 食育 1年3組 「やさいのひみつ」(学級活動) 小笠原 未来 教諭 ○視点 ・野菜のはたらきに関心をもたせる手立ては効果的であったか ・ねらいを達成するための発問や言葉かけは適切だったか 講師 武蔵野市立第二小学校校長 金子 圭子 先生 |
| 10/2 研究全体会 | 全体会 研究の方向性・研究の具体化 ・七つの柱の確認→柱を通して、自ら考え行動する子供を育てる ・今までの取組の反省からこれからの取組の計画 |
| 11/6 研究授業 5年 | 保健 5年2組 「けがの防止」 石原 恵 教諭 ○視点 ・自分の体を守ろうとする意識は高まったか ・保健分野での子供たちの課題は何か ・授業の中で行った実習は効果的だったか 講師 武蔵野市教育委員会指導主事 谷合 みやこ 先生 |
| 12/11 研究授業 2年 | 食育 2年1組 「ぐんぐんそだて みんなのやさい」(生活科) 廣沢 朋久 教諭 ○視点 ・体験的活動は効果的だったか ・授業の流れや手立てが効果的だったか 講師 西東京市立田無小学校校長 宍戸 鈴子 先生 |
| 1/7 研究全体会 | 全体会 研究のまとめに向けて ・アンケート・成果と課題について |
| 3/5 研究全体会 | 全体会 次年度に向けて ・成果と課題・研究紀要について |

平成26年度

| 日時 | 内容 |
|--------------|---|
| 4/ 9 研究全体会 | 本年度の研究について (実態把握・研究主題設定・指導計画の確認・研究授業の計画) |
| 4/23 研究授業 2年 | 体育 2年2組 「体ほぐしの運動」 中村 梨璃子 教諭 ○視点 ・体を動かす楽しさを味わう姿はみられたか ・進んで運動するような働きかけはできていたか 講師 東京学芸大学教授 鈴木 秀人 先生 |
| 5/ 7 研究授業 6年 | 保健 6年1組 「睡眠が健康に果たす役割」 竹野 紀子 教諭 ○視点 ・睡眠を取り上げたことで、児童が生活リズムを整えるきっかけとなったか ・振り返りグループ協議、自己決定が児童の意欲を高めたか 講師 武蔵野市教育委員会指導主事 三浦 壮次 先生 |
| 5/21 研究授業 4年 | 食育 4年2組 「食を見つめる～食と自分の健康～」(総合的な学習の時間) 熊谷 有美子 教諭 ○視点 ・実物の提示が、児童の食に関する関心を高めたか ・「食べるということは、どういうことか」について話し合いを深めるためのアンケートは効果的だったか 講師 東京都小学校食育研究会役員 河野 節子 先生 |
| 6/18 研究授業 3年 | 体育 3年2組 「体づくり運動」 鶴田 彩 教諭 ○視点 ・よい動きを意識しながら、楽しく運動することができていたか ・動きの組み合わせは、児童の意欲を高めたか 講師 東京学芸大学教授 鈴木 秀人 先生 |
| 7/ 2 研究授業 5年 | 食育 5年2組 「かむことの大切さ」(学級活動) 和田 恵美 教諭 ○視点 ・体験的活動は児童の噛むことへの意識を高めていたか ・授業の流れの工夫は、よく噛んで食事することへの意識を高めたか 講師 東京学芸大学教授 鈴木 秀人 先生 |
| 9/ 3 研究全体会 | 各分科会 研究発表に向けて (紀要分科会ページ内検討・本時案作成・掲示物作成計画) |
| 9/19 研究授業 1年 | 保健 1年1組 「めざせ！はやねはやおきあさごはんマン！」 武田 ちさと 主任教諭 ○視点 ・生活リズム表・フローチャートの使用は効果的だったか ・自分の体を守ろうとする意識が高まっているか ・生活リズム表は、家庭との連携に効果的だったか 講師 東京学芸大学教授 鈴木 秀人 先生 |
| 10/ 1 研究全体会 | 各分科会 研究発表に向けて (掲示物作成・授業準備・紀要作成) |
| 10/22 研究全体会 | 各分科会 研究発表に向けて (掲示物作成・授業準備・紀要作成) |
| 11/14 研究全体会 | 各分科会 研究発表に向けて (掲示物作成・授業準備・紀要作成) |
| 12/ 5 研究発表会 | 各学級 研究授業 研究発表会 |
| 1/ 7 研究全体会 | 全体会 研究のまとめに向けて(2年間の研究のまとめ・次年度に向けて) |
| 3/ 4 研究全体会 | 全体会 研究のまとめ(次年度の研究の計画・引き継ぎなど) |

体育分科会

めざす児童像

体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する子

ねらい

(1)主題のとらえ方

体づくり運動を中心として

本校の研究主題は「健康について関心をもち、自ら考え行動する子供の育成」である。様々な運動に親しみ、生涯にわたって運動することを楽しむことができる児童の育成をめざし、体育分科会ではめざす児童像を「体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する子」と設定した。

この児童像をめざし、「体づくり運動」の領域で研究を進めていくことにした。「体づくり運動」は、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、様々な体の基本的な動きを身に付けることをねらいとしている。この領域を研究、実践することによって、分科会がめざす児童像に近づけるのではないかと考えた。具体的な各学年の実践は以下の通りである。

低学年では仲間と交流できる「体ほぐしの運動」を通して、自分と仲間の心と体の交流をはかたり、学級の絆を深めたりすると同時に「体づくり運動」の中から様々な体の動きを経験させ、運動することの楽しさを味わわせることとした。

中学年では、低学年で身に付けた基本的な動きを繰り返し経験したり、新しい運動を行ったりすることによって、できる動きを増やしたり、今まで以上に安定した動きができるようになることをめざした。また、二つ以上の動きを組み合わせることによって、動きの質を高められるような運動を取り入れた。

高学年では、運動を楽しく行う中で体力の向上をねらいとし、中学年までに獲得した動きをもとに、体力の必要性や体力を高めるために行う運動を理解したうえで、自己の体力に応じた体力づくりを実践していくことをめざして運動を行うこととした。

(2)児童の実態・アンケート

遊びの偏り・いろいろな動きの経験不足

本校児童は、休み時間が中休み30分、昼休み25分、朝や放課後にも「あそべえ（放課後子供教室）」で体を動かすことのできる環境が整っており、「遊ぶ」ことを楽しむ児童は多いといえる。このことは、アンケート項目のうち、「中休みや昼休みは外で楽しく遊んでいますか。」「運動するのは楽しいですか。」「友達と仲良く遊んでいますか。」において、どれも90%に近い結果となっていることから分析できる。



しかし、児童一人一人では、ボールでしか遊ばない児童や、新しい遊びをしたがらない児童など遊びの偏りがみられる。鉄棒やうんていなどの遊具を使って遊ぼうとしない児童はスポーツテストの「握力」の値が低く、遊びと体力との関連性も見出せる。また、遊びや運動の偏りから、状況によって動き方を変えたり、工夫したりすることも苦手だということが分かってきた。

しかし、児童一人一人では、ボールでしか遊ばない児童や、新しい遊びをしたがらない児童など遊びの偏りがみられる。鉄棒やうんていなどの遊具を使って遊ぼうとしない児童はスポーツテストの「握力」の値が低く、遊びと体力との関連性も見出せる。また、遊びや運動の偏りから、状況によって動き方を変えたり、工夫したりすることも苦手だということが分かってきた。

授業

における工夫や手立て

(1)研究に迫る手立て

①体を動かす楽しさを味わう工夫

<第2学年 授業「体ほぐし運動」>

2年生では、体ほぐしの活動を、個人→少人数グループ→大人数グループ→クラス全体とし、取り組む人数を増やしていく変化を取り入れた。これにより、仲間と体を動かしながら交流し、協力しながら取り組むことによる楽しさを味わうことができた。また、運動すると気持ちが高まることに気づき、友達と一緒に運動したり用具を使って運動したりするなど、楽しく運動できる方法を選ぶ力も高まった。それだけでなく、楽しさをさらに保つためにはどうすればよいのかを考え、仲間と協力しながらきまりを守り、場や用具の安全に気を付けて運動に取り組む力も養うことができた。

はじめは、1人で挑戦！
体を動かすって楽しい！

新聞くっつけ走り

新聞リレー

フープリレー

仲間と協力する
楽しさを味わう

仲間がふえると
また楽しいね！



<第3学年 授業「体づくり運動」>

3年生では、体を動かすと心が弾むことや、体の力を抜くと気持ちがよいことなどに気付かせた。「心と体の繋がりが=心と体の一体化」を意識させるために、4月には新しいクラスの仲間との関わり合いをもつことによる、心や体のよい変化に気付くことをねらいとして、体ほぐしの運動を行った。内容としては、「円形コミュニケーション・ねことねずみ・みんなでジャンプ」などの活動である。6月の運動会で発表した表現活動では鳴子を使って踊り、主に「ジャンプ・回る・ける・仲間と動きを合わせる・一定のリズムに合わせて動く」などの動きをした。団体競技では、棒引きを行い、「掴む・引っ張る・走る」の動きを行った。他に、運動会で扱わなかった動きを取り入れて、基本的な動きを組み合わせさせた。そこにやや難しい動きも取り入れることで、新たな動きに興味をもたせ、児童の意欲をかき立て、体を動かす楽しさを味わえるよう工夫した。



いろいろな動き方が
あるんだね！

いろいろな動きを組み合わせる【体ほぐしの運動】

②主体的に体を動かすための工夫

組み合わせた動きに自ら取り組む



児童が、組み合わせた動きをもっとやりたいと思えるように、単元の前半では基本的な動きに取り組む。単元の後半では、自分自身やペアで動きを組み合わせられるように動きの組み合わせ表を提示するなどの工夫を行った。また、お互いの動きを真似し合い、よい動きを褒めたり、児童に発表する場を設けたりした。

取り組みやすい身近な道具を使う



児童が手軽に運動に取り組めるよう、身近な道具である新聞紙・ボール・フープなどを準備した。

教材・教具の工夫

家でもできそう！

授業以外の 取組

(1) 体育朝会と休み時間

体育朝会

いろいろな動きの経験

体育の年間指導計画をもとに、毎月1回、体育朝会を行っている。1学期は体ほぐし、2学期は体づくり・持久走、3学期は縄跳びをテーマに、体を動かす楽しさを味わい、進んで運動できるよう、児童の発達段階や時期に合わせて取り組んでいる。



いろいろな動きを経験しました



たてわりのメンバーで声をかけ合いました



休み時間でもこんな遊びをしてみようよ!

遊びにつながるように動きをみんなで楽しみました

休み時間

自分から取り組む

休み時間には、遊具を使った運動の取組、音楽に合わせたリズムなわとびを行ってきた。たてわりグループごとに分かれ、てつぼう・うんてい・のぼりぼうなどチャレンジカードにある項目に取り組んでいる。達成した項目にはリーダーや先生がシールを貼り、自分の成長やめあてが把握しやすいようになっている。



のぼりぼう



うんてい



てつぼう

次はこんな技をやりたいな!

校庭でチャレンジカードをつかって取り組みました

(2) 年間の取組計画



・体の基本的な動かし方を知る。
・仲間と関わりを深め、体だけでなく、心もほぐせるようにする。

・いろいろな運動に取り組み、運動する楽しさを知る。
・体力を高めるための運動を継続して行う。

・体力を高めるための運動を継続して行う。

成果と課題

(1) 成果

○「体づくり運動」では児童の主体性を高めるとトレーニング的な運動ではなくなり、その運動が日常的に行われるようになることが分かった。今後も固定施設や持久走などのチャレンジカードに取り組みせ、継続して指導していく。

○研究授業の取組では、児童の主体性を高めるために、易しい運動(少人数、限定された動き)から、少し発展した運動(大人数、組み合わせのある動き)に繋げることを意識した。「できるかな。」という気持ちを引き出すことにより、児童の「やってみよう!」「挑戦してみよう!」という主体性が育ってきている。

○体育朝会・休み時間の取組により、遊具を使った遊びや、様々な運動に目を向け、挑戦したり、楽しんだりする児童が増えた。

(2) 課題

●2年生の授業では、新聞リレー遊びを行ったことで、早く着いたグループよりも、最後まで悪戦苦闘していたグループの方が結果的に運動量が多くなった。しかし、児童は早く着くことにこだわってしまうことが分かった。競争することが目的ではない体づくり運動の特性を押さえ、運動量について意識できるように言葉かけをし、工夫していく必要がある。

●3年生の授業では、体づくり運動のうち、「基本的な動きを組み合わせる運動」に取り組んだ。児童は多くの動きを組み合わせた。その結果、「いろいろな動きをやってみよう」という、児童の主体性を高めることにつながった。さらに、活動に取り組む中で、一つ一つの動きにおける「よい動き」とは何かを明確にすると組み合わせを発展させることができる。そのために、児童に意識させる時間を確保することは必要である。

●チャレンジカードを使った休み時間の取組により、「進んで運動する」という児童が増えたが、チャレンジカードがなくとも、日常的に取り組めるようさらに意識を高めていきたい。

| アンケート結果から | | H26 10月 |
|---|------|--------------|
| 中休みや昼休みは外で楽しんで遊んでいますか。 | 9割近く | の児童が肯定的に答えた。 |
| 友達と仲良く遊んでいますか。 | 9割以上 | の児童が肯定的に答えた。 |
| 運動するのは楽しいですか。 | 9割近く | の児童が肯定的に答えた。 |
| 授業及び体育的取組実施後のアンケートから、「中休みや 昼休みは外で楽しく遊んでいますか。」「友達と仲良く遊んでいますか。」の項目において、向上が見られた。「運動するのは楽しいですか。」の項目についても、高い数値が見られた。 | | |

ねらい

(1)主題のとらえ方

睡眠に目を向けて

保健分科会では、健康な児童を育てるために、児童の生活リズムを整えることが最も大切であると考えた。そのために、めざす児童像を「自分の体や健康に関心を持ち、生活に役立てようとする子」と設定した。これまで年に3回行っている生活リズム表を振り返ったところ、児童の課題は“睡眠”にあることが分かった。睡眠は、健康に不可欠だけでなく、成長期の児童にとって大きな役割を担っているものである。睡眠の大切さを理解し、睡眠に対する意識を高めさせたい。

そこで、まず生活リズム表をより効果的に活用するために、授業に取り入れた。それにより、これまで何となく過ごしてきた日々の生活を“健康”という視点で振り返ることができると考えた。また、自身がつけたリズム表を事前・事後に用いることで健康と睡眠への関心が高まり、家庭との連携を図るとともに、知識だけに留まらない実践に繋がっていくと考えた。

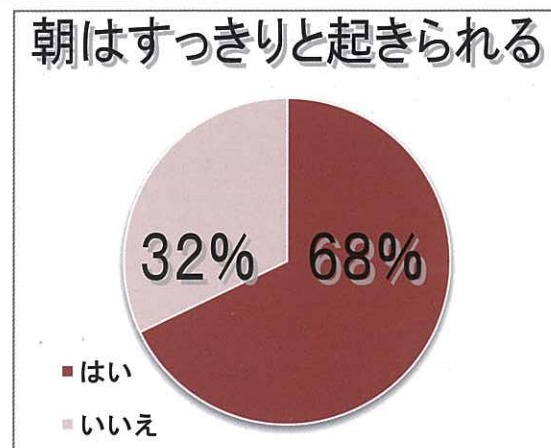
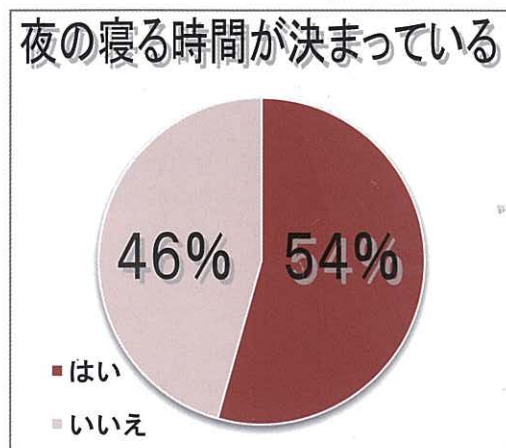
(2)児童の実態・アンケート

睡眠時間に課題

健康に過ごすために気を付けていることがあると答えた児童は低学年から60%を超えている。“健康”という言葉は、耳にする機会が多く、子供たちの中にも浸透していると考えられる。しかし、生活リズム表からは学年が上がるにつれて、睡眠時間が短くなるという実態がある。就寝時刻の遅さが見られ、また、就寝時刻が決まっていない児童や朝すっきりと起きられない児童が多いことが気になる。

就寝時刻が遅くなると、朝ごはんや歯磨きなど一日の始まりにも影響する。睡眠のリズムを整えることは生活のリズムを整え、健全な児童の育成に繋がっていくと考えられる。健康についての意識は高まってきているので、“睡眠”が健康に果たす役割を意識して生活をさせたい。

全学年アンケート 平成26年6月実施



授業

における工夫や手立て

(1)研究に迫る手立て

①自分の生活を振り返る

<第1学年 授業「めざせ！はやねはやおきあさごはんマン！」>

- 質問に従って進むフローチャートを使用し、今の自分の生活がどんなタイプか分かるようにした。また、自分これからなりたいと思うタイプもはっきりと捉えることができた。
- 授業前に記録した生活リズム表を授業の中で使用したり、友達と見比べたりすることで、自分の生活リズムへ目を向けさせることができた。



はやねはやおきあさごはんマンになりたいな！

第1学年 「めざせ！はやねはやおきあさごはんマン！」

<第6学年 授業「睡眠が健康に果たす役割」>

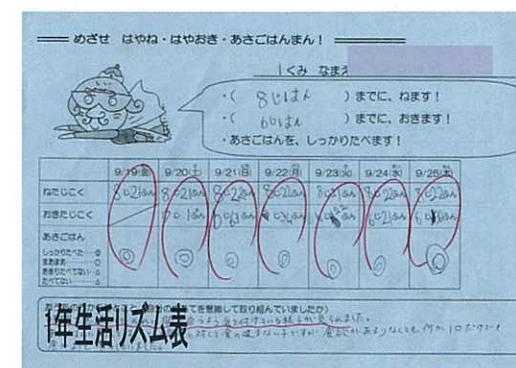
- 自分の気付きを大切にするために、班での話し合い活動を取り入れた。班ごとに、夜、早く眠りに付くためのよい方法を話し合わせた。また、課題解決への意欲を高め、自分の睡眠を振り返ることをねらいとして、班ごとの考えを交流し合う場を設けた。



睡眠について自分の課題は何か

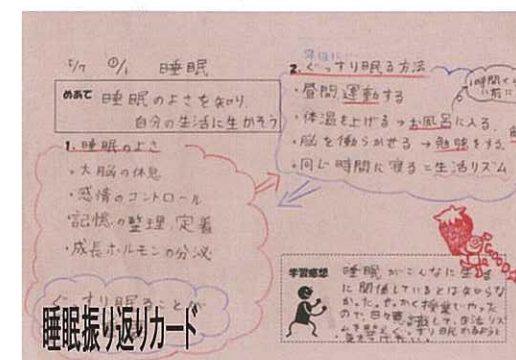
第6学年 「睡眠が健康に果たす役割」

②家庭との連携をはかる



<第1学年 授業「めざせ！はやねはやおきあさごはんマン！」>

- 授業の内容を知らせる手紙を配布し、保護者の方にも生活リズムの大切さを理解し、協力してもらえるようにした。授業後、保護者に生活リズム表の取組に協力をお願いした。



<第6学年 授業「睡眠が健康に果たす役割」>

- 授業後には、振り返りカードを使用した。その振り返りカードには家庭からの一言メッセージを記入する欄を設け、児童の取組を励ますコメントを記入するようお願いした。授業の内容を保護者の方と一緒に振り返り、健康について家庭で話し合えるように工夫した。

授業以外の 取組

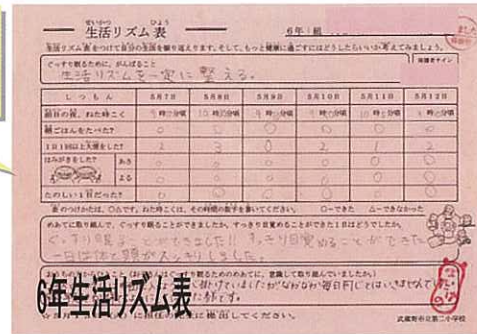
(1)生活リズム表・校内掲示

生活リズム表

年間3回、普段の生活を振り返るよい機会になっています。

家庭との連携をはかる

毎年、学期ごとに1週間、児童の生活リズムを見直し、意識を高めることを目的に行っている。主な内容は、睡眠・朝ごはん・歯磨き・排便である。継続的に取り組んでいるもので、児童にも家庭にも浸透しており、家庭からも協力を得ることができている。生活リズム表をつけたあとに振り返る機会を設けて、活用できるようにした。今回は、生活リズム表の取組前後の指導・活動を充実させていくことで、家庭との連携をより密にし、生活リズムへの意識を高めることを目的とした。

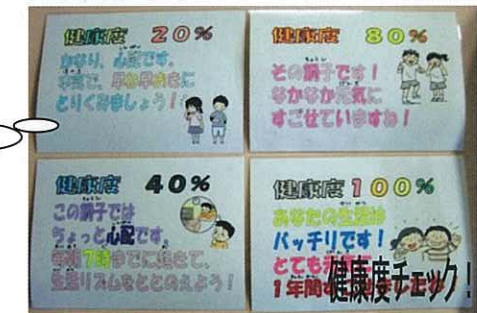


保健の月目標に合わせた掲示をすることで、意識を高めています。

校内掲示

自分の生活を振り返る

保健室前の掲示板では、睡眠に関する掲示を行うことで、自分の睡眠について興味をもって振り返れるようにした。また、授業内容と関連した掲示を行うことで、授業の成果をさらに高めるよう工夫した。



委員会で作った新聞や、自身の生活を振り返るフローチャート形式の校内掲示で健康への意識を高めます！！

(2)年間の取組計画

- 体の健康 (4月) 手洗い (5月) 歯を大切に (6月) 清潔 (7月) → 1学期
- 睡眠 (9月) 姿勢 (10月) 心の健康 (11月) 病気の予防 (12月) → 2学期
- 体の健康 (1月) 病気の予防 (2月) 1年間のまとめ (3月) → 3学期

- 生活リズム表 (5・9・1月)
- 校内掲示・保健新聞 (毎月)



健診時の保健指導

校内掲示は児童の関心も高く、何度もフローチャートを行ったり、新聞を読んだりする姿が見られた。また、健診時に併せて、睡眠や歯科衛生等、生活リズムに関する保健指導を行った。

成果と課題

(1)成果

- 睡眠を中心とした生活リズムを整えることをテーマに授業を展開することで、睡眠がいかに健康にとって大切であるかを児童に理解させることができた。そして、毎日の生活において児童が意識していなかった睡眠について、意識して生活できるよう児童の関心が高めることができた。
- 生活リズム表を活用して授業を行うことで、児童が自らめあてを立てて生活リズム表へ取り組むことができた。毎年取り組んできた生活リズム表の大切さを再認識して活用できた。

チャレンジカードの感想から 各学年から抜粋

児童の感想

- 親に起こされていたのが起きられるようになった。
- 睡眠をとっていないと体調に差があるとわかった。
- 以前よりも、早く目覚められるようになったことで、時間を有効的に使い、すっきりとした一日になった。
- すっきりと目覚めることができた一日は、頭がすっきりした。

保護者の感想

- 時間を意識して過ごす様子が見られた。
- 早く寝るため、夕食の前に次の日の準備をするようになった。
- これからも続けてほしい。
- 寝る時間が遅いのを自分でも感じていた。



「心も体もたくましい子をめざして」チャレンジカード

- 今年度10月実施の「心も体もたくましい子をめざして」チャレンジカードの感想から、睡眠への意識の高まりが分かる。睡眠は体だけでなく、心も健やかにするために必要なものであると理解している児童が増えたことは成果である。
- チャレンジカードの保護者の感想から、児童が家で早く寝るために準備をしている様子がわかった。授業や取組を実践し続けることで、睡眠への課題が改善できると感じた。

(2)課題

- 1年生の授業では、発達段階から、まだ時間を意識して進んで取り組むことは難しいことが分かった。授業を実践へとつなげていくために、保護者との連携は大切である。お便りで授業の趣旨や様子を伝え協力を求めることに加え、保護者に授業から児童と一緒に参加していただくなど、連携の方法についてさらに工夫していく必要がある。
- 6年生の授業では、習い事や塾、家庭の事情等、様々な生活スタイルの実態を踏まえ、授業づくりをすることが必要であると分かった。6年生になると自分で生活リズムをつくれる年齢でもあるため、授業後も睡眠について定期的に意識する機会をもたせることが課題である。

保健分科会では、「睡眠」を中心とした「生活リズム」を整えることに焦点をあてて研究を行ってきた。今後、歯磨き、排便等にも視点をあて、健康に関連付けて指導していきたい。

ねらい

(1) 主題のとらえ方

「食の大切さを知り、よりよい食生活を送ろうとする子」をめざして

移り変わりの激しい社会環境の中では、食に関する指導の重要性が強く叫ばれている。なぜなら栄養バランスの偏りや朝食欠食などの食生活の乱れ、孤食や個食、痩身傾向などが見受けられ、食生活に関する様々な課題が取り上げられているからである。

本校の食育分科会では、昨年度からの研究主題である「健康について関心を持ち、自ら考え行動する子供の育成～体育・食育を通して～」をもとに「食の大切さを知り、よりよい食生活を送ろうとする子」をめざす児童像として設定した。

本校では、これまで継続してきた昼の放送での「献立紹介」をより充実させるとともに、食育の日の「二小☆Let's モグモグ」タイムの設定、食育掲示板の設置など、児童に「食」を意識させるような取組を進めてきた。また、児童主体の「食に関する体験学習」の機会が必要であると考え、食育の授業の中には、実物教材を使った「体験学習」を取り入れて授業を行ってきた。

「食」は生きるためには欠かすことができないものである。児童が自己の食生活に興味・関心を持ち、自己の食事に関して主体的に判断し、よりよい食生活を送ろうとする意識が高まれば、本校の研究主題「健康について関心を持ち、自ら考え行動する子供の育成」につながるのではないかと考えた。そして本研究で取り組んできた活動を継続し、児童の健全な食生活を実践しようとする態度が育つよう努めていきたい。

(2) 児童の実態・アンケート

栄養バランスの意識

今年度6月に行った「食に関するアンケート」の結果では、「朝食を毎日食べていますか。」「家での食事は、主食・主菜・副菜がそろっていますか。」の問いに対して、85%の児童が「はい」と答えており、食生活が充実していることが分かった。また、「食事は楽しいですか。」という問いに対しても、91%の児童が「はい」と答えており、その理由として「給食では友達と話しながら食べられる。」「家族で食べるのが楽しい。」「好きな食べ物がたくさんある。」「出掛けた時に外食するのが楽しい。」といった理由を挙げる児童が多かった。

しかし、「栄養のバランスや食べる量に気を付けていますか。」という問いに対しては、全体の32%の児童が「いいえ」と答えている。自ら栄養バランスや量に気を付けて食べることについての意識はそれほど高くないことが分かった。

以上アンケートの結果から、児童は「食」に対する興味・関心は高く、良好な食生活を送ることができている。児童自らが自分の健康のために食を選んだり、量を調整したりすることをめざしたいと考えた。食育分科会では、食育における健全な食生活を実践しようとする態度を育成することをめざすべく「食の大切さを知り、よりよい食生活を送ろうとする子」をめざす児童像に設定し、研究を進めていくこととした。そして、特にその中でも、「食べることへの関心をもつこと」「バランスよく食事をする」との2点について、児童の発達段階に応じた系統的な指導を進めていくこととした。

(1) 研究に迫る手立て

① 体験活動を取り入れる

<第5学年 授業「かむことの大切さ」>

5年生は「かむこと」の授業で以下のねらいをもち、実際に食べ物を噛む体験を取り入れた。

- ① 普段の食事の際の噛むことに対する意識の低さへの気づき
- ② 普段の自分の噛む回数の把握
- ③ たくさん噛んだときの口の中の様子への気づき

それぞれ目的を明確にして段階的に体験活動をさせることで、噛むことへの関心を高め、児童の実感を伴った理解へとつなげることができた。体験を通して学習していくことで、日常的な経験を振り返り、実感できるようにし、食生活に関心がもてるよう工夫した。

段階的な体験活動を取り入れ、「かむこと」の大切さに気付かせました！



いつも何回ぐらいかんでいるのかな

② 実物提示・掲示資料を工夫する

<第4学年 授業「食をみつめる～食と自分の健康～」>

4年生は食べることの大切さを知る学習で、ごはんなど実物の食材を用いて一日に必要な食事の量を考えさせた。実物の食材とその量に注目することで、偏りなく食べることの大切さについて実感を伴った理解へとつなげた。

4年生の学習では、「食べたものが体にどう影響していくのか」を知る場面で人の体の模型を使い、食べたものが体に吸収されるまでを説明した。また、5年生の「たくさん噛むことが体によいわけ」を知る場面では、ICTを活用し、細かく噛み砕いた食材の方が吸収しやすいことを説明した。提示資料を児童にとって分かりやすく、実感の伴った理解に繋がるよう工夫した。この提示資料を活用することで児童の関心は高まった。

<実物教材の提示>



1日のカロリーー
ごはんだと何杯分かな



パンをのみこむまで
何回かんでいるのかな

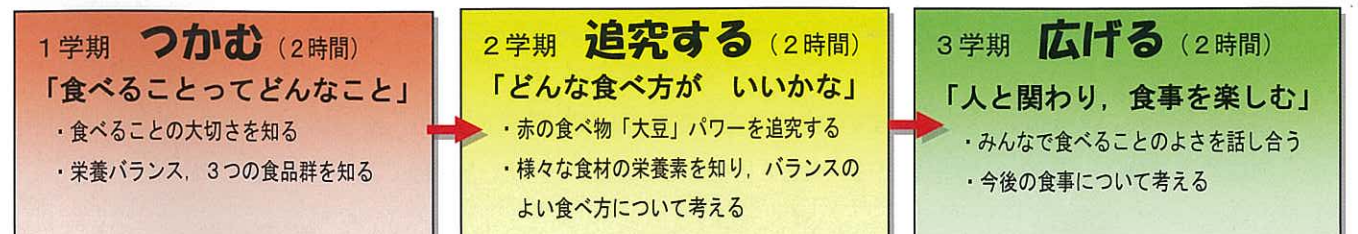
<提示資料の活用>



食べ物が体に入っていくと...

③ 学習過程を工夫する

4年生の総合的な学習の時間の年間指導計画に「食をみつめる～食と自分の健康～」を単元として組み込んだ。学期に2時間、年6時間の計画で、「つかむ」「追究する」「広げる」の3段階の問題解決型学習を実践している。年間を通して学習することで、食に関する知識を深め、日常の食生活への意識の向上をめざしている。



授業以外の 取組

(1)食育の日・給食指導・食育掲示版

給食指導

食について知る

毎月給食目標を教室に掲示し給食指導を行っている。その中で特に食のマナーについて重点的に取り上げ、意識を高めている。また、年に1回武蔵野市給食・食育振興財団の栄養士が学級を訪問し、栄養指導を行っている。さらに財団の給食調理員が1年生を訪問し、給食を作る際の大きな道具などを見せてくれるので給食への関心が高まっている。



バランスよく食べてね!

栄養士による
4年生への栄養指導



こんなふうに必要な
給食をつくっているよ!

給食調理員による
1年生への給食指導

食育の日・給食掲示

食について関心をもつ

食育推進基本計画に示されている毎月19日の食育の日に、お昼の放送で、季節にちなんだ食材や食べ方などを紹介している。これまでに「たけのこ」「切干大根」「豆腐」「すいか」「ぼたもち」「さんま」を紹介した。また、毎月これらの内容を「二小☆Let's モグモグ」として配布し、教室に掲示することで児童の食への関心を高めている。

職員室前の掲示板を「二小食育コーナー」としている。毎月食にちなんだ掲示や、箸の持ち方などのマナーの紹介など、児童や家庭へ向けて食への関心を高められるよう工夫している。

また、「二小☆Let's モグモグレシピ」を発行し、旬の食材を使った料理を家庭に向けて紹介している。

楽しく体験できるような「食育体験コーナー」も設置しました!



毎月食育の日の取組です!

(2)年間の取組計画

- ①食の小話「二小☆Let's モグモグ」毎月19日、各学級で食の話に触れる機会をもたせる。
- ②食のレシピ「二小☆Let's モグモグレシピ」毎月、旬の食材を使ったレシピを自由に持ち帰れるよう設置する。
- ③昼の放送「食の小話」給食委員会がその日の献立と食に関する話をする。
- ④3つの栄養素掲示板 給食委員会がその日の給食の献立を栄養素別に掲示する。
- ⑤食育掲示板

毎月職員室前に食への興味・関心を高めるような掲示を行う。体験ブースも設け、楽しみながら食への関心を高められるようにする。食事をする際のマナーなど日々児童に指導していきたい内容は、各学級で活用できるよう掲示物を作成している。

成果と課題

(1)成果

- 食べ物の働きや栄養についての指導を続けた結果、給食を食べる時に、その食材やその働きに興味をもって話題にしたり、意識して食べたりする児童が増えた。
- 10月に行った児童アンケートの「栄養バランスや食べる量に気を付けて食べていますか。」という項目に関しては、数値的に大きな変化は見られなかったが、個々の児童の様子からは食品の働きや栄養を意識して食べようとする発言や態度が見られた。児童が取り組んだチャレンジカードの感想には、「給食を残さず食べられるように頑張りたい」「好き嫌いをなくしたい」という前向きな感想が多く見られた。これは、元気であるために自ら意識して食べようという気持ちが高まってきたことへの表れである。
- 毎月食育の日の「二小☆Let's モグモグ」「二小食育コーナー」などの取組を行ったことで児童の「食」への興味・関心を高めることができた。
- 食への関心を高めるためには、家庭との連携を深めていきたいと考え「二小☆Let's モグモグレシピ」を作成し、配布した。各家庭が児童と一緒に楽しく「食」に関心がもてるような働きかけをすることをこれからも増やしていきたい。また、北町調理場に協力してもらい、児童が給食で食べて好評だった調理法をこのレシピにのせるなど連携を深めることができた。

(2)課題

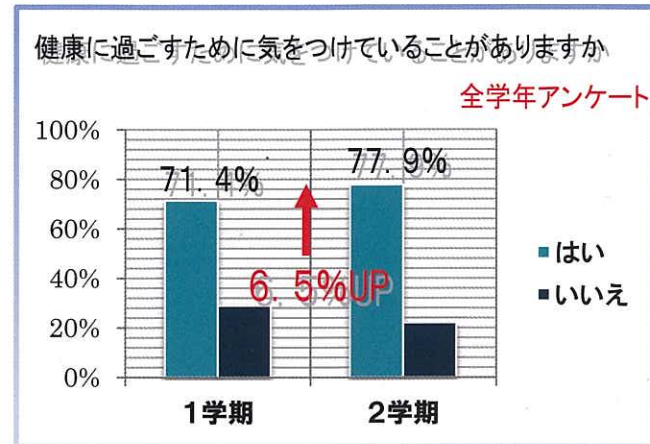
- 給食委員会による毎日のお昼の放送「今日の献立と食の小話」、毎月食育の日の「二小☆Let's モグモグ」、職員室前の「食育掲示板」などによって、児童の「食」への興味・関心を高めることができたので、今後はさらに児童が主体的に活動できる場面が増えるよう、教師側からの継続的な働きかけが必要である。
- 学校における食育の成果や課題を家庭と共有し、連携を深めていくことが大切である。
- 2年間の取組を振り返り、「食育年間指導計画」を見直し、食に関する指導をより充実させることはもとより、学年の発達段階や内容の系統性を踏まえたより実践的な計画を立てることが重要である。
- 「食育」の授業では各学年が同じテーマに取り組む際、正しい知識をしっかりと身に付け、普段の生活で実践できるような内容であることが好ましい。そのため、授業内で扱う教材等も「実現可能なもの」、「他学年においても効果的に使うことができるもの」であることが大切である。今後、どの学年でも進んで取り組むことができるような授業展開を工夫し、その授業を継続的に実践していくことが重要である。

研究を進めていくとともに、子供たちにとって「食育」がいかに重要なものかを改めて実感することとなった。二小の子供たちが、この研究で行ってきた食育をきっかけに「食」に関心をもち、正しい知識を身に付けて、自分の体作りのためによりよい食生活を送っていくことを心から願っている。

研究の成果と課題

1 成果

○3つの分科会で、児童が健康について関心をもつことができるような授業実践を重ねた。その結果、健康についての知識を広げ、自分自身の健康に関心をもつ児童が増えた。



○『心も体もたくましい子をめざして』チャレンジカード」に取り組み、自分で健康になるための目標を立て、自分から活動できるようにした。望ましい生活習慣の定着に向けて意欲が向上した。

○授業と関連した取組を全校で行った。授業で高まった健康について興味・関心を大切に、実践する場を設定したことで、児童は健康について高い関心をもつことが分かった。授業と取組を関連させることは有効であった。

○二小のめざすたくましさをはっきりさせ、それをもとに体育朝会や生活リズム表、給食指導など従来の取組を見直し、日常生活に生かせるようさらに工夫した。自ら継続的に取り組む児童が増えた。

2 課題

●児童が心身ともに健康になるには、日常生活全体を通じて健康への取組を継続していくことが大切である。そのためには家庭での言葉かけも欠かせない。今後も家庭との連携をさらに深めていく。

●望ましい生活習慣を定着させるには、発達段階に応じた指導が必要である。高学年で自ら健康について考え、行動できるようにするためには、低学年・中学年で必要な知識を得ることが大切である。6年間を見通した指導計画の改善をしていく。

●2年間の研究で、自分の健康に関する意識は高まっている。しかし、目指すところは児童が健康で活力ある生活を送るために自ら考え行動する力を育てていくことである。その実践力を身に付けることは一朝一夕にできることではない。授業と日常の取組を関連させ、今後も研究実践を重ねていく。

おわりに

副校長 植松 修二

平成25・26年度の2年間、武蔵野市教育研究奨励校として、研究主題を『健康について関心を持ち、自ら考えて行動する子供の育成』とし、体育・保健・食育の3つの柱を立てて研究を進めてきました。

1年目は、低学年分科会・中学年分科会・高学年分科会に別れて、どのような実践ができるかを試行錯誤しながら進めました。2年目は、系統性を考え3つの柱を分科会とし、体育分科会・保健分科会・食育分科会に別れて研究を行いました。

深く考えるほど何をしたらよいか悩み、実践を積み重ねるほど、これでよいのかと悩むことがありました。しかし、粘り強く一步一步進んだことで、子供たちは自分たちの健康や体力に関して意識を高め、徐々に変化し成長しました。教職員も指導力を高め、子供たちと同様に成長しました。研究の途上ではありますが、この研究過程こそが一番の成果であり、財産ではないかと思えます。

最後になりましたが、このような研究機会を与えてくださいました武蔵野市教育委員会に感謝するとともに、本研究のためにご指導賜りました東京学芸大学教授 鈴木秀人先生をはじめ講師の皆様にも心より感謝申し上げます。

<ご指導いただいた先生方>

| | |
|-------------------------|-------------------|
| 東京学芸大学教授 鈴木 秀人 先生 | 東京福祉大学教授 古俣 龍一 先生 |
| 福生市立福生第七小学校元校長 山森 健吉 先生 | |
| 武蔵野市教育委員会指導主事 谷合みやこ 先生 | |
| 武蔵野市教育委員会指導主事 三浦 壮次 先生 | |
| 東京都小学校食育研究会役員 河野 節子 先生 | |
| 西東京市立田無小学校校長 宍戸 鈴子 先生 | |
| 台東区立浅草小学校副校長 長柄 克彦 先生 | |

<研究に携わった教職員>

| | | |
|----------------|----------------|-----------------------|
| 校長 金子 圭子 | 副校長 植松 修二 | ◎研究主任 内海 孝亮(主) |
| ○1年1組 武田ちさと(主) | 3年1組 石原 恵 | ○6年1組 竹野 紀子 |
| 1年2組 埴田 聡 | ○3年2組 鶴田 彩 | 6年2組 長谷川海洋(主) |
| 1年3組 廣沢 朋久(主) | 4年1組 城田美穂子 | 図工専科 鳥越恵都子 |
| 2年1組 田中 洋子(主) | ○4年2組 熊谷有美子 | 音楽専科 杉山 倫子(主) |
| 2年2組 中村梨璃子 | ○5年1組 井出 史進(幹) | 養護教諭 坂倉 雅子 |
| ○2年3組 小笠原未来 | 5年2組 和田 恵美 | |
| ◎・・・研究主任 | ○・・・研究推進委員 | (幹)・・・主幹教諭 (主)・・・主任教諭 |
| (平成25年度) | 副校長 岡田仁美 | 主幹教諭 秋間正明 |

| | | |
|------------------|------------|---------------|
| 事務主事 田村 恭一 | 講師 後藤映美子 | 嘱託用務 三枝 苗文 |
| 学習指導員 萩原 恵子 | 講師 品田みづほ | 嘱託用務 鳥海 義人 |
| 講師 山本 佐江 | 講師 小林 敏江 | 施設開放管理員 舟山 五郎 |
| 理科指導員 矢吹富美子 | 講師 蓮見 隆夫 | 施設開放管理員 今泉 速水 |
| 学校図書館サポーター 西尾由美子 | 嘱託事務 郡司美恵子 | 施設開放管理員 中村 昭夫 |
| 学習指導員 津田万利子 | 嘱託事務 斎藤三枝子 | 施設開放管理員 寺尾 孝雄 |